

「DLA実践者養成のための講師育成研修」を開催しました

日本に中・長期に在住する外国人は、2,382,822人と急増しており、7歳から15歳の学齢期の子ども的人数も107,498人となっています(平成28年12月末現在)。このような状況の中で学校現場でも外国から来た児童生徒の対応を迫られており、彼らの言語能力を測定する共通の指標が必要となってきたため、平成25年度に文部科学省で『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA』が作成されました。

東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターでは、平成28年度に『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA』使い方映像マニュアル」をDLA開発者の協力を得て作成するとともに、「DLA使い方映像マニュアル」を活用して実践者育成のための「DLA使い方研修」を実施することで、外国人児童生徒への日本語指導の拡充を図ってきました。

今年度は、「DLA使い方研修」の講師を務められる人材を育成することを目的に、「DLA実践者養成のための講師育成研修」を東京都と愛知県の2会場で開催し、計72名が参加しました。参加者は、DLAの実践経験があることや、今後講師として活動できる方などを条件に選考し、二日間かけてDLAの使い方を伝えるための知識を学んだり、自分が講師をする際のプログラム作りなどを行いました。



先生方が集まり、二日間の研修を受けました



グループで研修方法を検討



ディスカッションの振り返り

研修の概要:

	日時	会場	参加者
東京会場	平成29年7月31日(月)・8月1日(火) 10:00-17:00	東京外国語大学 アゴラ・グローバル3階 プロジェクトスペース	32名
愛知会場	平成29年8月7日(月)・8日(火) 10:00-17:00	あいち国際プラザ	40名

講師:

伊東祐郎(東京外国語大学 大学院国際日本学研究院 教授、副学長)
小林幸江(東京外国語大学 名誉教授)
菅長理恵(東京外国語大学 大学院国際日本学研究院 准教授)

研修スケジュール:

【1日目】

- 講義① DLA概要
- 講義② 『はじめの一步(『DLA<話す>』を含む)』
- 講義③ 『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA<聴く>』

【2日目】

- 講義④ 『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA<書く>』
- 講義⑤ 『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA<読む>』
- DLA研修の実施方法についてグループディスカッション

共催(愛知会場):(公財)愛知県国際交流協会

名義後援(愛知会場):愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

受講者の感想:

研修に参加されたのは、教育委員会の研修担当者、外国出身の児童生徒がいる担任の先生、日本語指導の担当者、地域の日本語教室の方など、現場で実際に支援に当たっている方々だったため、グループディスカッションでは様々な意見が出ました。

アンケートでは、下記のような内容のほか、まだこの部分が理解できていない、というような意見もいただきましたので、今後の研修の課題にしていきたいと思います。



○研修を受けた感想

- ・先生の講義はもちろん、チームになった参加者の方々の実践など聞けて、とても役立ちました。
- ・研修前はぼんやりしていたことが、クリアになってすっきりした。DLAの基本的な考え方、待つ・引き出す・認めるは、DLA実践だけでなく、子どもの支援の在り方にも通ずるところがあると思う。
- ・二日間、大変充実した内容で、学ぶことができました。同様の境遇の参加者の方々から意見を伺ったり、シェアリングする機会をいただきましたことに感謝しております。
- ・巡回指導が職務のため、毎日の指導はできません。取り出し事体に非常に拒否感の強い学校や担任も少なくありません。が、少しずつDLAの実施をすすめていくことで、その時間中だけでも取り出し授業を有効に使い、自ら自身の「もっとやりたい！」気持ちを高められる効果を感じます。それがDLAの効果だということを、講義をとおして改めて振り返ることができました。
- ・評価が「支援を得て」と「支援を得ず」で変わることを知らない方がいらっしまったので、強調する必要があると感じた。



○これからDLAを広めるために、どのような活動をしていく予定ですか

- ・研修に参加できなかった人たちも、たくさんDLAについて疑問点や悩んでいることを持っていると思います。今回研修で学んだことを現場でシェアし、DLAを使える人を増やしていけるといいです。
- ・生活言語には問題がないために他の生徒と同じ状態で授業を受けている生徒の学習言語としての日本語の能力を調べれば、通常の授業の中でどんな支援ができるか考えられるのではないかと思います。
- ・まず、同僚の指導員の方達と情報を共有したいと思います。残念なことに自分の県ではDLAが周知されていないようなので、現在担当している子供の担任の先生、教頭先生に紹介し、興味を持ってもらえるよう、働きかけたいです。時間はかかるかもしれませんが、地道に積み上げていきたいと思っています。
- ・地元の日本語学級担当者への研修会を、これから年4回予定しています。その中でDLAについて研修を取り入れます。
- ・学校での日本語指導のためにDLAアセスメントを行って、的確な学習活動をしていきたい。DLAをどう活用するのか知らない人たちのお手伝いをしたい。(特に教育委員会レベル)
- ・自身の活動地域でDLA実践を行うとともに、小中学校の日本語指導担当者とネットワークを形成し、DLAの実施に関する合意の形成を行う。
- ・日本語教師の方や、日頃お手伝いをしている小学校の先生方にも紹介したい。